

式 辞

本校、創立三十周年記念式典に際しまして、ご多用の中、尼崎市市長稲村和美様、尼崎市教育委員長濱田英世様、教育長徳田耕造様をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、紅葉鮮やかな秋の佳きに日に、この式典を執り行うことができますこと誠に目出度く、心から御礼申し上げます。

本校は昭和五十七年、一年生三百八十四名でスタート致しました。以来三十年、卒業生は五千八百六十四名に達しています。開校当時の新聞を見ますと、過密化した武庫中学校から分離・独立したものの、グラウンド予定地に民家十一戸が残ったまままで整備できず、「民家付き中学校」としてスタートしたとあります。その後地域の皆様のご協力をいただき、現在の状態に漕ぎ着けたと聞いています。

学校を立ち上げるにあたり、初代校長熊田進先生は教育理念を「生涯、社会の一員として自立し、連帯して、たくましく働く人」と定められました。人は皆、将来社会の一員として生きていかなければなりません。互いに助け合い、励まし合い、協力し合う態度と、常に学ぶ姿勢を育成してゆこう。この理念を「自立する力」「豊かな心」「温かな人」の三点に簡潔にまとめられ、今日に至っています。

また、武庫の自然とその中で生き抜いてきた人々の生活を、何か形あるもので表現したいの思いから枯山水の石庭をつくられました。本校の正門を入りますと正面にございます。サツキ、イヌツゲ、ドウダンツツジ等の低木とクロマツ、アラガシ等の高木を配し六甲山系の緑を表現しています。また、常夜灯や船をかたどった石のモニュメント、そして近隣の農家からいただいた石臼を配して、豊かな農耕文化をはぐくんだ武庫川を表しています。なお、石庭をつくる際には、本校第三代育友会長

石井松男様に、一方ならぬお骨折りをいただいています。

さて、この様に常陽中学校がスタートしたわけですが、開校後も全教員を上げて教科指導研究に取り組み、指導と評価の一体化を目指し、いち早く観点別評価を取り入れていきます。今でこそ観点別評価は当たり前ですが、相對評価一本だった当時の状況を考えれば、教育界の先駆的存在であったといえます。

その後も、昭和六十一年には全国学校体育研究大会、昭和六十二年からは尼崎市立中学校教科指導研究推進業務委託を受け、翌六十二年には研究発表を行っています。さらにこの年は、常陽中学校区児童生徒健全育成事業実践報告会を開催し、学校と地域が連携して子ども達を育成していくというモデルを作り上げています。その努力に敬意を表します。

また、クラブ活動においては柔道部、吹奏楽部、陸上部が全国大会に出場しましたし、今年の夏の総合体育大会では男子バドミントン部が団体で近畿大会三位に入りました。これらはほんの一部の結果ですが、各部とも市内大会・阪神大会・県大会で活躍し、本校の輝かしい伝統になっています。

一方、この三十年の間に社会は大きく様変わりしてしまいました。開校当時の日本は力強い経済力に支えられ、飛ぶ鳥を落とす勢いでしたが、平成の時代に入り徐々に陰りが見はじめます。国内産業の空洞化が進み、若者にとって思うように就職ができない厳しい時代になりました。加えて、阪神淡路大震災、東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故、台風の異常発生、大雨洪水被害など大きな災害が次々と起こっています。

さて、在校生の皆さん、皆さんの目に現在の日本はどのように映っているのでしょうか。今の時代が良いのか悪いのか、住み易いのか住み難いのか、とらえ方は人それぞれでしょう。しかし、私は問題は山積していても、日本は恵まれた国だと思っています。今この瞬間にも世

界のいたる処で戦争や飢餓が起こっていますが、日本では飢えることなく、命を脅かされることなく日々暮らすことができるからです。

昨年の七月、この体育館で社会人に学ぶと題して、ケーク職人からミルフイユという会社を立ち上げた野村信希さんに講演をしてもらいました。二・三年生は覚えているはずです。この野村社長は高等学校を卒業後、パティシエの修行に飛び込み二十七歳の若さで独立されましたが、もし自分がヨーロッパの国に生まれていたら、決して経営者にはなれなかったとおっしゃっていました。ヨーロッパでは厳然とした身分制度があり、職人は決して経営者になれないそうです。自分は日本人に生まれてラッキーだった。今の日本は、自分がなりたいものに挑戦できるチャンスに恵まれた数少ない国の一つですと言っておられました。

今日は常陽中学校創立三十周年のお祝いの日です。三十年たったから目出度いわけではありません。先人に感謝し、その努力を生かし、未来に向けて正しく伸びていくと決意する日です。今日は一人一人が創立記念日の意義を考え、自分の未来に新たな目標を抱いて下さい。

最後になりましたが、三十周年記念事業の実施にあたり実行委員の皆様、学校関係各位、地域の方々、保護者の皆様の多大なご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。また、創立三十周年という記念すべき年に、常陽中学校に在職しております我々教職員は、心新たに明日からの教育活動に全力を傾けて、本校の発展に努力する所存でございます。

ご臨席の皆様方、どうぞ今後とも常陽中学校に対しまして、温かいご支援を賜りますようお願い致しまして、私の式辞と致します。

平成二十三年十一月八日

尼崎市立常陽中学校長 上田 勝則